

噴火がもたらした群落 むひょうざわ 霧氷沢のヒカゲツツジ

普賢岳の山頂から東に向
かって登山道を進むと、ほぼ
垂直に切り立った崖に囲まれ
た谷があり、その向こうに平
成新山が迫ります。この谷は
風の通り道になるため、冬に
霧氷がよく見られることから、
霧氷沢と呼ばれています。過
去の火山噴火とその後の大地
の動きがつくった垂直の溶岩
の崖にへばりつき、岩場を覆
うように生えているのが、ヒ
カゲツツジです。

ヒカゲツツジはミヤマキリ
シマと同じ背の低いヤマツツ
ジの一種で、その名の通り、
日陰でもきれいな花を咲かせ
ます。また、ツツジのなかで
は珍しい、淡い黄色の花をつ
けます。華やかなミヤマキリ
シマとは対照的な、落ち着い
た魅力を持つヒカゲツツジは、
特に霧氷沢の周辺で素晴らし
い群落をつくっています。そ

れはなぜなのでしょう。

ヒカゲツツジは、周りを背
の高い樹に囲まれた日当たり
のよくない場所や、水の少な
い岩場といった、他の植物が
生えにくい場所を選んで命を
紡いできました。ところが霧
氷沢は、平成噴火の際に火山
ガスや火山灰の影響を直接受
け、多くの植物が枯れてしま
いました。この噴火を生き延
びたヒカゲツツジは、上を背
の高い樹に覆われなくなった
ため、一気にその勢力を伸ば
し、岩場を覆いつくす群落と
なったのです。

噴火がつくり出した岩場の
上でたくましく生きるヒカゲ
ツツジは、周りに背の高い樹
が生えてくるまで、毎年4月
末から5月初めに、霧氷沢の
岩場を淡い黄色に染め続けま
す。



霧氷沢の崖を覆うヒカゲツツジの群落